公益社団法人　横浜市幼稚園協会発行
〒221-0055
横浜市神奈川区大野町1-25
横浜ポートサイドプレイス　アネックス5F
電　話　045（534）8708
http://www.kids-yokohama.or.jp
編　集　横浜市幼稚園協会広報部
発行者　木元　茂
印刷所　合資会社横浜大気堂

協会報 浜私幼

教職員版

No.252

▼横浜市幼稚園大会開催
▼新任研修会に参加して
▼第1回 教員研修会
▼横浜市幼稚園協会教員対象研修会
　年間予定
▼よこはまのこども

「未来へはばたけ子どもたち―地域で育てよう思いやる心―」
平成25年度横浜市幼稚園大会開催

木元 茂会長の挨拶

林 文子横浜市長からお祝いの言葉

梅雨の候、しとしとと小雨が降る中、平成25年度横浜市幼稚園大会が６月12日(水)に横浜市文化体育館で開催された。会場には大勢の幼稚園教職員や保護者、園児が集い、定刻の午後３時に真紅の緞帳が上がり開幕した。

舞台中央の金屏風の前には横浜市長と横浜市会議長から贈られたお祝いの生花が飾られ、その壇上には、向って右側に横浜市長、横浜市会議長、市会各党団長、行政関係者、養成校の代表者など多数の来賓の方々が着席され、左側には横浜市幼稚園協会長をはじめ協会関係者が着席し、大会の進行を見守った。

田野岡由紀子副会長が「長年幼稚園のために働いてくれた教職員の方々への表彰を嬉しく思い、共に感謝し喜び合いたい」と開会を宣言した後、参加者全員が起立して国歌、横浜市歌を斉唱し、式典がスタートした。

最初に挨拶に立った木元茂会長は、まず永年勤続表彰受賞者へお祝いの言葉を述べた後、平成27年４月施行予定の「子ども・子育て支援制度」に触れ、「その具体化に向けて現在『子ども子育て会議』が開催されており、今後子ども達の教育・保育・地域の子育て支援などの事業計画が策定される予定である。そして、今後各園が進路を決めるにあたっては、幼稚園協会からも必要な情報を提供していきたい」と話された。

さらに、昨年12月に亡くなった歌舞伎役者の中村勘三郎さんについて触れ、同氏が古くからの「型」を大切にしながら新しい歌舞伎に取り組んできたことを紹介し、「幼稚園協会もこれまでの研修研究制度や教員の質の向上などの伝統的な『型』をしっかり受け継ぎ、これからもこれまで各園が培ってきた素晴らしい教育環境、しっかりとした教育理念を大切にしながら、協会としても加盟園と共に協力し合い、新しい制度に向き合っていきたい」と話された。

続いて父母の会連合会古谷みずほ会長が挨拶に立ち、受賞者へお祝いの言葉を述べた後、今年の幼稚園大会のテーマ「未来へはばたけ子どもたち―地域で育てよう思いやる心―」について話され、地域社会の中で子どもを育てていくことの大切さを訴えられた。そして、就園奨励金制度の拡充や父母セミナーの開催など父母の会連合会の活動が、子どもの幸せにつながるように努めていきたいと抱負を述べられた。

この後、教職員の方々の永年勤続表彰が行われた。まず勤続20年、15年、10年、５年の順に教職員が登壇し、木元茂会長からそれぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。続いて、勤続40年、35年、30年、25年の節目を迎えた教職員の方々の表彰が行われ、それぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。今年は総勢414名の教職員が長年幼児教育に貢献した功績をたたえ表彰された。

さらに勤続20年、15年の教職員の方々に対しては横浜市長表彰が行われ、横浜市長代理の鯉渕信也こども青少年局長から代表者に表彰状と記念品が授与された。

次に、来賓の方々からお祝いの言葉を頂いた。まず、林文子横浜市長が挨拶に立ち、永年勤続表彰の先生方に「これまで実践してきた質の高い幼児教育をさらに発展させ、子ども達の健やかな育ちを一緒に支えてください」とお祝いの言葉と同時に、市の保育所待機児童が今春０人になったことについて触れ、「その実現にあたって幼稚園が預かり保育事業に参加してくれたことが大きな力となった」と、感謝の意を表し、さらに「子ども達の感性を豊かにするため、今年も文化芸術事業に取り組み、『横浜音祭り2013』を市内各地で開催するので協力をお願いしたい」と述べられた。最後に「横浜で暮らし、働き、子育てをする人達が、安心して生活を送るためには、幼稚園関係者が大きな支えの根幹になっているので、これからもよろしくお願いしたい」と結ばれた。

続いて、挨拶された佐藤祐文横浜市会議長は「次代を担う子ども達を育成する公教育を推進する立場として、引き続きその真価を発揮していただきたい。そして、未来の宝である子ども達が健やかに育ち、次代の横浜を、そして日本を背負ってくれる人材として立派に成長ができるように、引き続き皆様にお力添えを賜りたい」と祝辞を述べられた。

次に、来賓紹介が行われた後、平成24年度父母の会連合会役員の方々へ感謝状の贈呈が行われ、役員５名を代表して宮陽子前父母の会連合会会長に木元茂会長から感謝状が手渡された。

続いて、横浜市幼稚園父母の会連合会伊藤陽子副会長から、「未来へはばたけ子どもたち－地域で育てよう思いやる心－」をテーマとした大会宣言案が読み上げられ、満場一致で大会宣言が採択された。そして、この大会宣言は、後日横浜市及び横浜市議会に届けられることになった。

最後に、永年勤続表彰を受けられた教職員を代表して、桜ヶ丘幼稚園福原恭子先生が、これまでの保育を振り返りながら、「常に支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れず、さらにより良い幼児教育を目指していきたい」と謝辞を述べた。

以上で式典はすべて終了し、参加者全員で幼稚園讃歌を斉唱した後、渡邉英則副会長が閉会の辞を述べて、午後４時45分に横浜市幼稚園大会を閉幕した。

佐藤祐文市会議長よりお祝いの挨拶

古谷みずほ父母の会連合会会長の挨拶

伊藤陽子父母の会連合会副会長による大会宣言

永年勤続表彰

福原恭子先生より謝辞

新規採用教員研修会に参加して

平成25年5月15日　かながわ労働プラザ　●講師：秋草学園短期大学　　岸 井　慶 子 先生

「失敗から学ぶ」

始めに、こども青少年局子育て支援部長田中博章氏からご挨拶があり、続いて横浜市幼稚園協会木元茂会長から、新任採用の私達に温かい励ましのお言葉をいただき、研修会が始まりました。

まず、今年２年目を迎えられた３名の先輩の先生方が自園での体験談を話されました。普段の自分の保育と重なる場面もあり、とても共感できる内容も多く、同じ保育者の一人に加わることができたような嬉しさを感じました。特に印象に残ったのは、「謙虚に失敗をしまくる」という言葉で、失敗を学びへと変えていく気持ちが大切であるということをお話ししてくださいました。私も失敗をすることがありますが、失敗を経験することによって、反省をしたり、また、先輩の先生に助けていただきながら、次にどうすれば良いかを学ぶことができました。

また、講師として来ていただいた秋草学園短期大学教授の岸井慶子先生が「大事な仕事ほどできるようになるまでには時間がかかる」とおっしゃっていましたが、私はその言葉がとても心に残りました。今、完璧にできなくても、自分なりに日々一生懸命子どもと向き合い、関わりながら、１年間をがむしゃらに過ごし、自分を磨きあげる努力をすることにより、子どもとともに成長していきたいと思います。

（飯島東幼稚園　有信 麻美）

「子どもの気持ちを知る」

今回の研修の中で、子どもの気持ちを汲み取ること、感じること、子どもの気持ちを知りたいと思うことが大切だという言葉が、とても印象に残りました。

私は、就職して２ヶ月が経ちますが、毎日を過ごすことに必死で、子どもの思いをきちんと感じ取ることができていただろうか、寄り添ってみることが出来ていただろうかという疑問を感じました。

大勢で遊んでいるけどいま一歩踏み込めないでいる子や、多くの友達と楽しそうに遊んでいる子よりも、一人で寂しそうに遊んでいる子にも、目を向けられる、声をかけてあげられることが保育者としては必要になってくるのだと改めて実感しました。

一年先輩の先生方のお話の中では、「子どもの目線に立って見る」ことがとても大切であったという実体験を聞き、それは子どもの立場や感じ方を理解するということではないかと思いました。一人ひとり、その日、その時で感じ方、考え方も変わることもあり、常に把握していくことは大変なことであると思います。しかしそれを心がけなければ、子どもの発見を見逃してしまったりするのではないかと感じました。大人にとって些細なことでも、子ども達にとっては大きな発見に繋がるかもしれないと思うと、「子どもの目線に立って見る」ことはとても重要であるのだと気付かされました。

この研修に参加させていただき、明日に向け、心新たに前向きに頑張れそうな気持ちを持つことが出来ました。　まだまだ先生として未熟で、つまずき悩むこともたくさんありますが、日々子ども達とのかかわりの中で学び、成長していきたいです。

（愛和太陽幼稚園　小沢 里依子）

第1回 教員研修会報告

平成25年5月22日㈬

第1分科会

◆テーマ：うたが生まれるとき
◆講　師：詩人　童話作家　工藤　直子 先生
◆会　場：西公会堂

「うた」とは、口ずさんだり、耳にしたりと、普段の私たちの生活の中で切っても切れないものです。私も保育の中で子ども達とうたを歌ったり手遊びうたをしたりしますが、今回の工藤先生のお話の中で私は「うた」のおもしろさや楽しさ、又、詩をどのように読み解いて聞き手に伝えれば、聞き手はより絵本・詩の世界に入り込めるかということを勉強させていただいたように思います。

工藤先生は初めに、《のはらうた》を紹介して下さいました。《のはらうた》とは、曲全てが生き物の特徴や気持ちを歌ったもので、26～7年前に工藤先生が作詞をしたもの。

また、曲名が「かまきりりゅうじ」、「へびいちのすけ」というように名前が付いているのも《のはらうた》の特徴の一つだそうです。工藤先生が《のはらうた》の歌詞を考えるとき、実際に生き物の気持ちになって、「かまきり」だったらどんなことを感じるのか、「へび」ならどんなことを考えているのかという思いをそのまま歌詞にしているのです。

また、読む際に“聞き手は耳に入れてから感情が湧くものだから、読み手は感情を入れず、色がつかないよう読む”ということと、“実際に聞き手が本を読んでいるみたいに必要な所で間を空けて読む”ということを大切にしている、とおっしゃっていました。

工藤先生は作った詩を《のはらうた》にのせて子ども達に伝えるということ以外に子ども達と何かの生き物になって考え、生き物の気持ちになることを楽しんだり、同じ生き物でも年齢や育ちが違えば声や読み方が違うという視点を子ども達と楽しんでいるというお話がありました。

私は今まで、紙芝居や絵本を子ども達の前で読む際にどのようなことを伝えたいか、作者はどのような思いで作ったのか、裏表紙を読むことはしても、子ども達一人ひとりが思うお話の主人公について話をしたり読み方を考えたりする場は設けていなかったことに気づかされました。これから、より子ども達が「うた」や「絵本」の世界の主人公の気持ちになりきったりはいりこめるように保育をしていきたいと思った研修会でした。

（つくの幼稚園　小林 ひろみ）

第2分科会

◆テーマ：あそびうたで Let'sコミュニケーション
◆講　師：保育シンガーソングライター　荒巻　シャケ 先生
◆会　場：鶴見公会堂

「あそびうたでLet'sコミュニケーション」という研修会テーマで、保育シンガーソングライターの荒巻シャケ先生をお招きして手あそびうたを教えていただいた。6年間勤めた保育園を退職後2008年より保育シンガーソングライターとしてオリジナルのあそび歌を創作し、ふれ

あうことの心地よさ、一緒に遊ぶことの楽しさを伝えたいとライブ活動など様々な活躍の場を広げていらっしゃる方である。

荒巻先生が登場すると、開口一番『のりものへんしん体操』で始まった。その後、先生たち全員が立ち上がり、ブルドーザーに変身したり、ダンプカー、クレーン車と全身を使った動きに会場全体が和やかなムードとなった。

表現が苦手な子ども達が、気付いたら自然と表現していたり、「これだったらやってみようかな」と感じるきっかけ作りになってもらいたいと思い制作したとの事だった。

また、手遊びなど子どもの興味に合わせ、歌詞を変えるなど工夫をし、表現のやりとりをすることで自由な答えを導きだし、決まっていない答えこそが遊びとなると教えていただいた。ふれあい遊びや、ラーメンのうた、バンダナを使ったあそびなど終始笑顔と笑いが絶えない楽しい研修会となった。

今後もよりよい保育を行うために、子ども達と遊びを通して新しい発見をしたり、笑顔となる保育ができるよう、日々成長していきたいと感じた。

（岡津幼稚園　佐藤 美紗）

第3分科会

◆テーマ：**こどもの命を守るために**
◆講　師：ジャーナリスト・翻訳家　猪熊 弘子 先生
◆会　場：港南公会堂

研修会は「平成24年度・子どもの事故の報告」を見ながら乳児と幼児に分けて話が進められた。その中でも東日本大震災の例では、地震で助かっていた子どもの命が津波によって奪われてしまったことについての話がとても印象深く、避難するルートの把握、災害時の避難場所の確認など、改めて、地震や津波を想定した訓練と意識が重要だと感じた。

研修会のテーマである「死を招いた保育」はどこの園にも関係することであり、猪熊先生の話を聞いて身の引き締まる思いだった。

幼稚園や保育園は、子どもが楽しく安全に過ごせる場所、保護者が保育者に信頼をもって任せていることを忘れず、保育に携わらなければと改めて思った。園内では、保育者同士が声を掛けあい、一人ひとりの顔や性格を理解し、個性を知っていることで、トラブルや事故に早く気づいて対応でき、職員間の関係性が重要となる。また、保育者と保護者が日ごろから良い関係性とスムーズなコミュニケーションをはかれていたら、事故を未然に防ぐことができたという話を聞いて、私自身、振り返ることができた。保護者だけでなく、子どもと保育者、子ども同士にも同じことが言える。人間関係の育ちがあるか、関わり方を深く観察し、子どもたちに上下関係が生まれないよう配慮しながら、子ども集団を育てなければいけないと強く感じた。「預かって無事に帰す」が保育や教育ではなく、一人ひとりの存在を大切にする教育が本来の姿である。

子どものそばにいる人が子どもの命・成長を支えることができると心にとめ、一日一日が充実した時間になるよう保育を大事に考えていきたい。

（八幡橋幼稚園　小林 久美子）

平成25年度　横浜市幼稚園協会教員対象研修会　年間予定　免：免許更新講習対象講座

教員研修会	5/22(水)・10/23(水)
教育研究大会	2/1(土)
研究講座	4/30(火)・8/9(金)免
カウンセリング	6/28(金)・8/3(土)免・9/6(金)・11/15(金)・2/7(金)
保育力キャリアアップ研修講座	6/25(火)免・7/9(火)免・9/3(火)免・10/29(火)免・11/19(火)免・12/3(火)免
特別研究委員会「1」	5/30(木)・6/20(木)・7/11(木)・9/26(木)・10/24(木)・11/7(木)・12/5(木)・1/9(木)・2/20(木)
特別研究委員会「2」	5/9(木)・6/6(木)・7/4(木)・9/12(木)・10/17(木)・11/21(木)・12/12(木)・1/23(木)・2/13(木)
特別研究委員会「3」	5/14(火)・6/18(火)・7/16(火)・9/17(火)・10/15(火)・11/12(火)・12/10(火)・1/14(火)・2/18(火)
保育実践事例研究委員会	6/22(土)・7/13(土)・9/7(土)・10/26(土)免・11/16(土)免・12/7(土)・1/11(土)・2/22(土)

横浜市主催研修会（幼稚園協会協力）

新規採用教員研修会	5/15(水)・8/8(木)・8/9(金)
幼保小教育連携研究会	7/26(金)・7/29(月)

よこはまのこども 現在鋭意製作進行中です！

“よこはまのこども”を編集し直す、というのはある種、完成された曲をもう一度編曲し直すような作業に近いのではないかと思う。昨年度に発行されたものに至るまで、もうすでに何人もの著者・編者が内容を熟考し、基本的に構築された良い部分を生かしながら、それでも毎回多くの知恵を集めリメイクして、「今年一番」と思えるものを毎年生みだす。だから完成度という意味においては毎年かなり高い質になっている。また、普遍的なテーマのものについては昨年のものであったとしても、十分今年にも通用するはずである。

それでも時流に合わせ、内容を再考し、吟味し、その時にふさわしいものに、本来そこにあるメロディーラインを大切に生かしながら、少しリズムを変え、使う楽器にも変化をくわえ、細かいオブリガードを追加していく。そんな作業を毎年繰り返しながら、今年の“よこはまのこども”を作っているのである。

まずは昨年発行されたものを編集に携わった者全員で熟読し、直した方が良い部分、そのままで継続した方が良い部分、加筆訂正を行った方が良い部分などを見直す作業から始まる。さらにその段階で各ページの担当者を決め、写真を集め、内容を組み替えていく。

加筆訂正部分の原稿が出そろい、写真も集まったところで再度招集があり、仮のレイアウトなども考えながら全員で内容を見つめ直し、未完成の部分に関してはさらに進行を続ける。最終的に内容が9割以上出来あがったところで、もう一度集まり、全員で目を皿のようにして校正し、「これが現段階で最良のモノ」と判断がついた段階で、校了を迎えることになる。

こんな過程を経て生みだされた「今年一番のよこはまのこども」はもうじき完成です。是非、購読の程よろしくお願いします。

（広報部　野末 晃秀）

事務局より

平成24年度から公益社団法人としての協会に生まれ変わった。奇しくもその年、事務局内も大きく変化をした。協会事務局に34年間勤め、協会の歴史でもあった星野小枝子さんが退職し、また10年間事務局長として勤めた庄子哲雄さんも同時に退職した。現在、新しい事務局長を向かえ、若いパワーを加えて、横浜市の幼稚園が綿密な連携を保ちながら、日々の保育内容の研鑽がたゆみなく続くよう、全力でのサポート体制を維持している。

いつでも気兼ねなく事務局にご連絡を。

吉宮 恵子　畝原 芳美　中村 奈穂子　中川 里奈
齋藤 林福

編集後記

今回の教職員版は横浜市幼稚園大会、新任研修会、第1回教員研修会と教員対象研修会の予定を載せました。

9月に解禁になった園児募集の活動にも活躍するであろう「よこはまのこども」のメイキングも特集しています。

あわただしく始まった今年度も順調に進み、気づいてみればもう1学期がおしまいです。この夏休みにエネルギーを充填して、子ども達も先生達も機嫌よく健やかに2学期に向かってほしいと思います。来学期もよろしくお願いいたします。

（広報部　浅沼 郁子）